兵庫県阪神シニアカレッジ同窓会マイスター教室

『ＤＸ（デジタル変革）で実現するシニア活躍社会 －時空を超えた新しい地域貢献』

2022年11月22日(火) 13:30～15:00

インフォミーム株式会社代表取締役
総務省地域情報化アドバイザー／地域力創造アドバイザー
関西学院大学総合政策学部非常勤講師

博士(環境人間学)　**和　崎　　宏**

kotatsu@mememenet.or.jp

プロフィール

和崎宏（わさき　ひろし）1957年12月22日、福岡県飯塚市生まれ

インフォミーム株式会社代表取締役、琉球大学理学部物理学科卒(1980年)、兵庫県立大学環境人間学研究科博士後期課程修了(2010年)、博士(環境人間学)。

学校を核とした地域社会の再構築のために、ボランティアが校内LANを整備する市民運動「ネットデイ」のモデル化に成功した。２００６年に企画・開発した地域ＳＮＳ「ひょこむ」の運営に携わり、日本型地域ネットワークとＩＣＴを融合させた「情報プラットホーム」による地域やコミュニティの活性化を目指す。

2004年日経地域情報化大賞(CANフォーラム賞)、2005年地域づくり総務大臣表彰、2008年日経地域情報化大賞(グランプリ)、2010年総務省近畿総合通信局長表彰、2013年国土交通省国土地理院「電子国土功績賞」を受賞。国土交通省、総務省、文部科学省、兵庫県や自治体で各種の委員を務め、2007年より関西学院大学総合政策学部非常勤講師、総務省地域情報化アドバイザーとして活動中。

共著に『地域SNS最前線-Web2.0時代のまちおこし実践ガイド』(アスキー)、『地域をはぐくむネットワーク』(昭和堂)、『ネットデイで学校革命！』(学事出版)、『IT2001なにが問題か？』(岩波書店)、『感性哲学II』(東信堂)などがある。日本感性工学会、情報処理学会、日本情報経営学会会員。

理想のシニアライフ

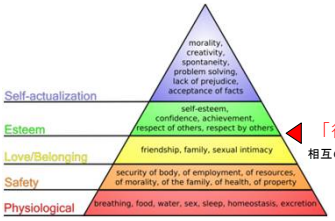
- ●時間に余裕がある
- ●経済的なゆとりがある
- ●痛い所もなく健康である
- ●前向きでアクティブ
- ●様々なことに挑戦している
- ●友人が多くはつらつとしている

これからのシニア

退職後余生をのんびり過ごす
家族・地域・社会にささえられる人

人生の第2幕を積極的にチャレンジ
いつまでも光り輝く社会を支える人

マズローの欲求段階説



「行き過ぎた個人主義」による弊害
相互の信頼関係・互酬性の規範・帰属意識の醸成

6. 自己超越の欲求　客観的で正確な判断、自己受容と他者受容、純真で自然な自発性、創造性の発揮、民主的性格、文化の超越、二元性の超越

5. 自己実現の欲求　能力・可能性を発揮し、自己の成長を図ろうとする欲求
4. 自我の欲求　集団から価値ある存在と認められ、尊敬されることを求める欲求
3. 社会的欲求　集団に属したい、誰かに愛されたいといった欲求
2. 安全の欲求　衣類・住居など、安定・安全な状態を得ようとする欲求
1. 生理的欲求　生命維持のための食欲・性欲・睡眠欲等の本能的・根源的な欲求

DX(Digital Transformation)

2004年に、エリック・ストルターマン
(スウェーデン・ウメオ大学教授)が提唱。
「ITの浸透によって、人々の生活をあらゆる面で
より良い方向に変化させること」

2010年頃からは、
「デジタル技術とデジタル・ビジネスモデルを用いて
組織を変化させ業績を改善する」

変革という目的を実現する手段がデジタル化！！

ソサエティ5．０－人間中心のスマートな社会

Society 5.0とは、**サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステム**により、***経済発展と社会的課題の解決を両立***する、人間中心の社会(Society)。狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画(2016)において日本が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

すぐそこにある未来ーシンギュラリティ(技術的特異点)

IoT(Internet of Things)

仮想現実(メタバース)

自動運転技術(UGV-unmanned ground vehicle)

ドローン(drone)

音声自動翻訳技術

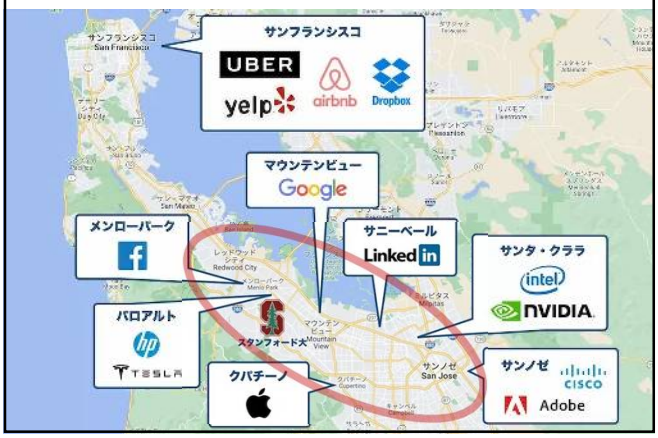
AI(人工知能)

ロボット技術

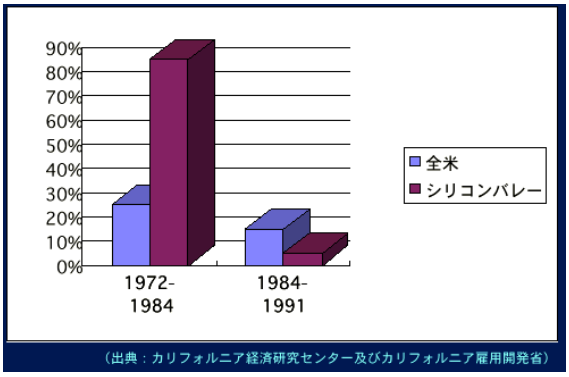
5G通信ネットワーク

ゲノム編集技術

シリコンバレーの『地域再活性化の学習』に学ぶ



シリコンバレーの劇的な雇用機会成長率の低下



シリコンバレー発展の陰で発生した社会的課題

賃金・生活費の高騰

優秀なスタッフの不足

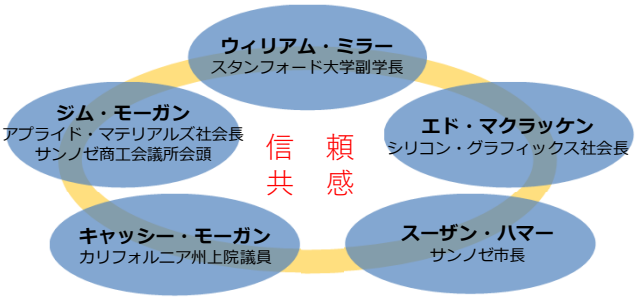
公共サービスの遅れ

教育の不均衡

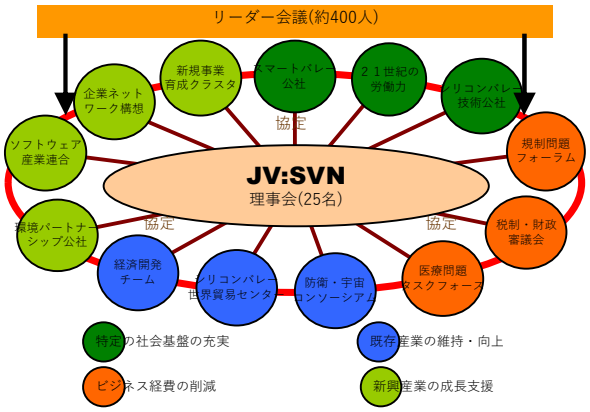
地域経済が停滞

湾岸エリアからの企業流出　　生活の質(QOL)の低下

危機に向かって立ち上がった地域のキーパーソンたち



Joint Venture : Silicon Valley Network



Civic Entrepreneur minds

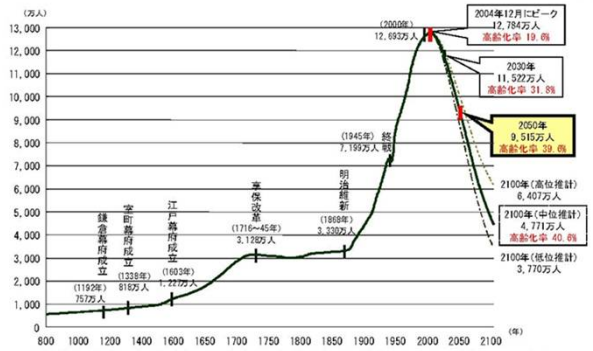
Openness
Fairness
Partnership

Three OK's of the Silicon Valley

OK to FAIL
OK to CHAT
OK to CHANGE

長期的な人口の推移と将来推計

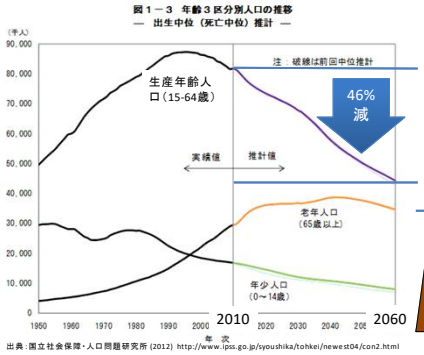
○日本の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前（明治時代後半）の水準に戻っていく。この変化は千年単位でみても類を見ない、極めて急激な変化。



（出典）総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」（1974年）をもとに、国土交通省国土計画局作成

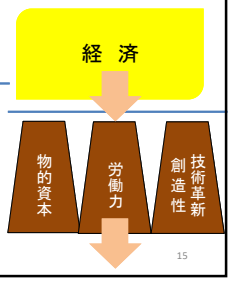
日本の厳しい状況：人口問題

- 日本の生産年齢人口(15-64歳)は、今後、大幅に減少→経済的付加価値を生み出すことが困難に



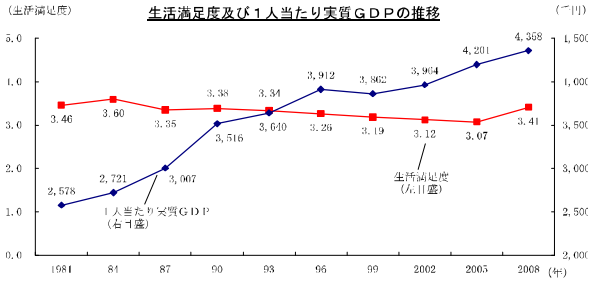
出典：国立社会保障・人口問題研究所 (2012) http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/newest04/con2.html

経済を支えるのは、資本と労働力、技術



経済的な豊かさは、必ずしも生活満足につながっていない

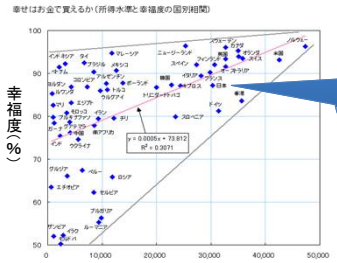
（第１－１図）１人当たり実質ＧＤＰは上昇しているものの、生活満足度は横ばい



出典：平成20年度国民生活選好度調査(http://www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/h20/20senkou_02.pdf)

成長と発展の２軸で考える時

- 成長＝量的な拡大、発展＝質的な改善
- 日本経済は、量的拡大は困難に直面しているが、生活の質は、まだ、高める余地があるのではないか



日本のGDP総額は世界第3位。しかし、幸福度は、全体の傾向よりも低い位置

幸福の源泉

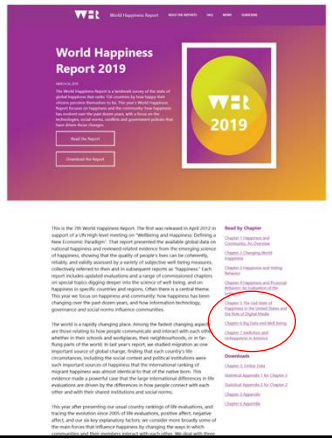
- 固い絆で結ばれた結婚
- 親密な友人関係
- 慈善行為や地域社会での奉仕活動
- 国民のニーズに応える効果的で説明責任を果たす政府が存在する安定した民主主義
- 健康だという自覚
- 信仰心

ソーシャルメディアや地域コミュニティが得意とする分野

幸福感の持続は、社会の結びつきを強めて他人の幸せをも高めるのに役立つ

デレック・ボック,『幸福の研究』,2011.06,東洋経済新報社

世界幸福度ランキング2019



国際幸福デーの3月20日に、7回目となる世界の156カ国を対象に調査をした「世界幸福度ランキング 2019」が発表。国連が毎年発表している幸福度のランキングで、各国の国民に「どれくらい幸せと感じているか」を評価してもらった調査に加えて、GDP、平均余命、寛大さ、社会的支援、自由度、腐敗度といった要素を元に幸福度を計る。
日本は2018年の54位から4つ順位を下げ58位。

2019トップ10

1位 フィンランド
2位 デンマーク
3位 ノルウェー
4位 アイスランド
5位 オランダ
6位 スイス
7位 スウェーデン
8位 ニュージーランド
9位 カナダ
10位 オーストリア

過去5年の日本の順位

2015年 46位
2016年 53位
2017年 51位
2018年 54位
2019年 58位

http://worldhappiness.report/ed/2019/

１．１７は忘れない！

- 阪神淡路大震災と情報ボランティア
- 「災害ユートピア」に見るコミュニティ覚醒
- 参画と協働の地域社会づくりに向けて
- タテ社会を支えた伝統的地域ネットワーク
- 希薄化する人と人のつながりを復興する

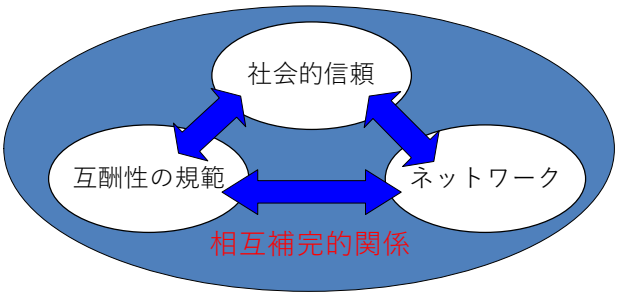
コミュニティを元気にする地域情報化の実践！

「日本型ネットデイ」が可視化したソーシャルキャピタル

兵庫県相生市立双葉小学校
和崎(2005-2006)が撮影

小さな動きを(関係性を増幅しながら)次第に大きく
活動を活性化する３つ(自発・参加・協働)のデザイン
信頼と互酬性を育む情報共有(ICTの活用)
潜在した地域のつながりの覚醒

ソーシャル・キャピタルの要素と相互関係



ソーシャル・キャピタルとは、人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴

ロバート・パットナム,1995,『哲学する民主主義-伝統と改革の市民的構造』NTT出版

ソーシャルキャピタルの４つの効果

- スピードアップ(仕事が速い)
- クオリティアップ(品質があがる)
- コストダウン(費用の極小化)
- サスティナブル(持続可能)

地域を支えた「講」の合力

宗教的結縁グループ	代参講 神道の講	講のメンバーが積み立てをして毎年代表者がお参りをする。
経済的共助システム	頼母子講 無尽講 模合講	定期的に徴収して積み立てた会費を、講のメンバーの経済的支援に充てる。山梨の「無尽」はその名前からも元は経済的な講であったものと推察されるが、現在ではほとんどの無尽講や模合講は、親睦や情報交換のためのネットワークとなっている。
地域介護システム	看取講 葬式講	看取講は、平安時代、比叡山の慈信によって始められたシステムで、戦後忘れ去られた。メンバーの中に死に至る病にかかったものが出ると、講員は介護所を定め、ローテーションを組んで、24時間介護体制をしいてこれを看取る。月に1度集まってお勤めを行う。
地域協働ネットワーク	結講 手間講 手間替講	現金を交えない労力交換。田植え稲刈りなどの農作業のほか、屋根講(葺講)なども講メンバーの共同作業であった。「舫い(もやい)」や入会地を講員で共同管理する「契約講」も、もとは結講から始まっている。

岡田,2006,『地域をはぐくむネットワーク』,p.11-13より、筆者(2008)が作表

日本型地域ネットワーク的思考とＷｅｂ２．０

	結縁ネットワーク・講(結)	Web2.0・SNS
自発性	設立・運営・加入・脱退は個人の意志に任される	自発的な参加が基本であり、サイト内のほとんどの機能が誰にも公開されていて自由に利用出来る
閉鎖性	年齢層・地縁・職縁・経済など多様なネットワーク形態を持ち、それぞれがほどよく閉じた状態で運営される	公開制限によって、コンテンツは発信者の意図により制御出来る
定日制(関係性の更新)	プロジェクトの節目や定期的に寄り合いを開いて意志決定を行う。決められた日に寄り合って宗教的行事を行い、飲食を共にする(共食)。	主催者による定期的な行事だけでなく、コミュニティやブログから派生する突発的イベントでの交流により、随時関係性が更新される
柔軟性	同じ形態のまま持続させることのみを追求せず、結成したり解消したりを柔軟に繰り返す。	多様なアプリレーションとの連携を行ったり、オープンソース化の推奨により、多くの開発者がマッシュアップを行うことを推奨する
越境性	空間的広がりを持つ中小の共同体メンバーや同業者が自発的にユニットを形成する。身分の越境もある(無礼講)	ブリッジ役を担う人材によって、ユーザーの意志でサイト内外の空間を融合的交流の場として活用できる
平等性	出資や寄与の多寡と関わりなく全員が平等の権利を有する	性別・年齢・障害・病気などによる区別がなく、ユニバーサルなコミュニケーション環境が作られる
その他	ネスティング構造、プロジェクト指向、信頼性、集合知の利用、分散ネットワークなどにおいて、両者は類似した性格を持っている	

25

江戸時代の地域防災備蓄倉庫「固寧倉」

現存する固寧倉の事例
飯島義雄氏撮影(2012)

固寧倉(こねいそう)は、儒教の古典「書経」にある「民は邦(くに)の本、本固ければ国寧(やすす)し」から命名。

姫路藩では、地域住民が穀物を出しあい自然災害に備える固寧倉が整備され、**1848年に288倉**に及ぶ。

民間が提案し、大庄屋・農民(頼母子講)・姫路藩が資金を出し合い整備。**江戸時代の官民共働**が機能した。

災害などの非常時に備えて米・麦・粟を貯蔵し、**平時には貯蔵食糧を低利で貸す**ことで継続運用された。

貸出は農民だけでなく庄屋や他の固寧倉も、借用証文を取り交わし、**利息は0.3%で期間は3～5ケ月**。

飢饉などの災害時には、固寧倉を開放し**無利子で食糧を放出**。代納で積み立てた**資金の提供**も行った。

江戸時代は、**多様な互助的災害支援の仕組みがネットワーク化**されており、固寧倉は、持続可能な仕組みとして運用され、**地域のセーフティネット**となっていた。

スウェーデンの生涯学習体系

27

民主主義の根幹を担うスウェーデンの「スタディサークル」

100年以上の歴史

学習協会1894年設立

禁酒運動・労働組合・環境保護

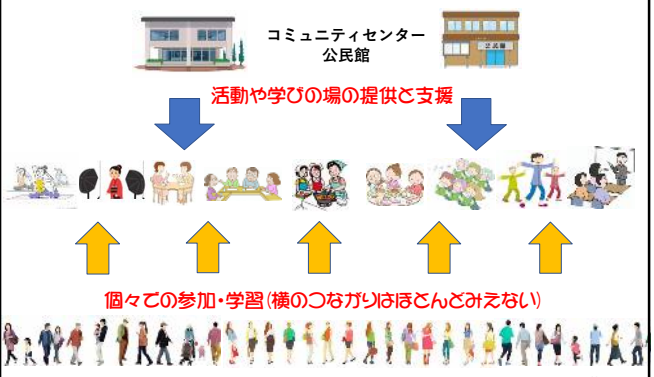
『民衆教育』お互いに学び合う

運営資金は、6割国・4割参加者

https://children.publishers.fm/article/19724/

約27万団体に170万人が参加(2015年)
3人以上で月2回の学習会を4ヶ月継続
学習協会(10社)に登録することで施設や助成
リーダーは民主的な運営のガイダンスを受講

従来の社会教育施設と住民の関係

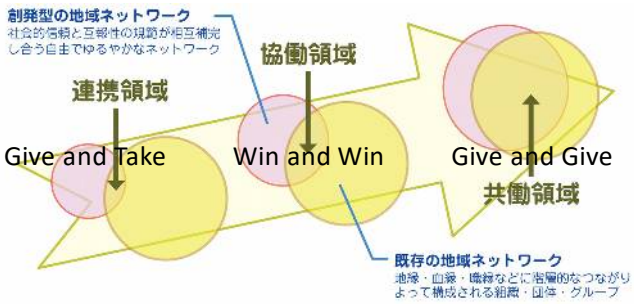


29

社会教育ＤＸとしての「ＥＮＧＡＷＡ」ネットワーク

「報徳仕法」と「知徳報恩」の精神ー個人所有から現代総有へ

「共働」：社会的利益に動機づけられた協力(co-action)
「協働」：互恵的な相互利益を確認した協力(collaboration)
「連携」：利己的利益に動機づけられた協力(connection)



31

道徳を忘れた経済は、罪悪である。
経済を忘れた道徳は、寝言である。

縁 Engawa プロジェクト

知 徳 報 恩

「知徳」は、他者による貢献を認識すること。
「報恩」は恩を与えてくれた社会（仏教では仏）や他者に報いて社会貢献すること。
古くから仏教では、感謝をすることを他者への報いの形として重視している。
日本が世界に発信できる未来の社会哲学がここに。

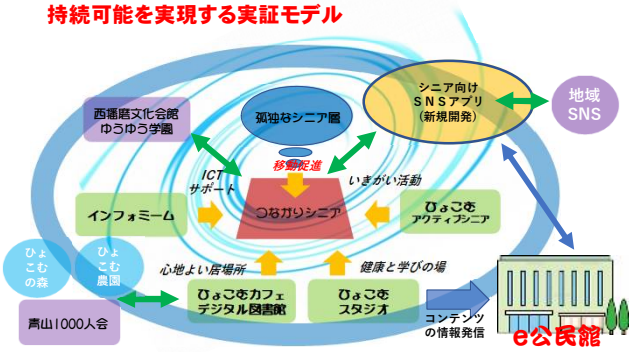
慶応大学教授・国領二郎氏

シニア世代の生き甲斐と健康づくりを創造する
「みんなの秘密基地」

デジタル図書館
「えんがわ」
＋
スタジオ
「ミーム」

シニアを社会的孤立から救え！ーデジタルサポートのＥＮＧＡＷＡづくり

ENGAWAをソーシャルビジネスとして
持続可能を実現する実証モデル



36

豊かな社会づくりに向けた地域社会のデザイン
－ＤＸで実現するシニア活躍社会

主な公表論文・著作物

・和﨑宏(2012)「災害と地域SNS」『情報化時代のローカル・コミュニティ―ICTを活用した地域ネットワークの構築』国立民族学博物館
・和﨑宏(2008)「日本型地域ネットワークを活用した持続可能な地域SNSの設計と運用」『日本感性工学会論文誌 Vol.8 No.3』,日本感性工学会,585頁～594頁
・和﨑宏(2008)「オンラインでの匿名性と倫理観」『コンピュータ&エデュケーション』(吉田等明編)東京電機大学出版局,pp.20-25
・和﨑宏(2006)「地域の人をつなぐツール」『地域をはぐくむネットワーク』(岡田真美子編),昭和堂,pp173-190
・和﨑宏(2007)「地域SNSの開設と運営」『地域SNS－ソーシャル・ネットワーキング・サービス－最前線 Web2.0時代のまちおこし実践ガイド』(庄司昌彦編),株式会社アスキー,pp142-179,pp.223-237
・和﨑宏(2002)「感性のはじけるくらしづくり－地域と情報化の関わり」『感性哲学2』(桑子敏雄編),東信堂,pp45-76
・和﨑宏(2004)『日本型ネットデイと地域ネットワーク』修士論文,兵庫県立姫路工業大学大学院
・和﨑宏(2008)『地域再生とネットワーク』岡田真美子編,昭和堂
・和﨑宏(2008)「つながりを可視化してコミュニティを元気にする地域SNS」『地域政策研究第44号』,財団法人地方自治研究機構,pp11-18
・和﨑宏(2008)「ほどよく閉じられた仕組みが信頼の輪を広げる」『月刊ガバナンス』,株式会社ぎょうせい,pp32-34

ご清聴ありがとうございました。

第11回地域SNS全国フォーラムin姫路「閉会式」より(2012.6.2)